

活動報告

団 体 名	NPO 法人いぶり自然学校
活 動 名	東胆振地域の子ども・親子のためのプレーパーク実施による震災復興支援活動
活動期間	2018/09/7 ～ 2019/03/31
活動の成果	1.子どもたちの心の居場所を取り戻すための活動を継続させた。また、その際生じる各提供者同士の連絡調整や意思のすり合わせのプロセスは、業界や立場を超えたフラットな関係を構築しやすく、今後の永続的なコミュニティづくりを促した。特に子どもの居場所づくりのノウハウを着地させた厚真町や安平町では、今後は町の税金が投入されることとなり、持続可能な活動となった。 2. 今回の支援活動において必要な、最低限の屋外用備品や道具・物品を揃えて、プレーパークなどでの活動提供で利用しつつ、その使い勝手を理解できる人材ネットワークの構築や、それを保管し、すぐに利用できるような物品庫の確保などを進め、次の有事の際に素早く提供できるようなシステムを構築した。 3.木育をキーワードにした活動を展開したことで、林業や木材・林産物を利用する各種キーパーソンにプレーパークとの関わりを促すことができ、今回大きな林業被害を受けた森林関係者の復旧に向けたモチベーションを生み出すことができた。また、「今度の有事の際も、木育ネットワークが出動し、子どもと地域を救う」という子どもや親子を中心に据え、それを地域産業が支えるというまちづくりの仕組み化を促進させた。
寄付者へのメッセージ	大震災という危機的状況の中、子どもはもちろん、地域の人々の心を救ったのは子どもの遊び場の「森のようちえん」「プレーパーク」であると、強く信じています。これらの活動は、社会の課題が浮き彫りになりやすい有事の際であるからこそ、その課題解決に寄与する方法であると確信できます。しかし、災害があったからその有用性が認められただけで、普段はそのような活動は不要か、と言うと、そうは思いません。 普段から、日々の暮らしの中に「森のようちえん」あるいは「プレーパーク」的な活動やコミュニティがあれば、有事の際でも、様々な人たちの協力体制があり、もっとスマートに素早く子どもの居場所を確保することができるでしょう。 各地において、普段からその場の暮らしにあった「森のようちえん」「プレーパーク」的な活動が展開されるべきである、と強く思っています。そして、これらの活動を、単なる「子どものため」「教育手法の一環」など一面的な効果だけで評価するのではなく、コミュニティの再生、ツーリズムの促進のところにまで視野を広げ、多面的な機能や効果があることを認識するべきです。 つまり、公共性が高いだけに自立的な運営は難しい分野でもあるので、「行政をはじめ様々な立場から支えられる活動であって欲しい」と強く思います。

活動のようす)

